

令和4年度 兵庫県立鳴尾高等学校 学校評価

1 教育方針

<p>校訓 「自律 創造」</p> <p>(1) 自己に打ち克つ厳しさと豊かな創造性を培い、広い視野に立つ教養豊かな人材を育成する。</p> <p>(2) 生涯を通じて学ぶことを楽しみ、自己を教育し続ける強い意志を持ち、21世紀に生きる人材を育成する。</p> <p>(3) 他を思いやる心の豊かさを持ち、国際性豊かな人材を育成する。</p>

2 学校経営の重点

<p>本校の伝統である文武両道の気風を生かしつつ、「自律・創造」の校訓に基づき、自己に打ち克つ厳しさと豊かな創造性や教養を備えた、思いやりのある心優しい人材を輩出することを学校経営の中心に置く。</p> <p>さらに、命を大切に、さまざまな困難を乗り越え、他を思いやる豊かな心を培うとともに、グローバルな視点に立った共生・共存の心を育む。</p>

3 学校自己評価

領域	項目	評価
学校運営	学校から保護者や地域への情報発信は、学校のホームページや保護者向け文書、学年通信、学校案内等を通じて適切に行われた。	A
	家庭との連携は良くとれた。	B+
	学校評議委員制度を活用した学校運営を行った。	B
	特別活動や生徒会活動等を通して、地域との連帯・地域への貢献ができた。	B+
	地域の中学生や保護者に対して、本校の教育について情報を発信し、理解が得られた。	B+
	生徒心得の点検や見直しを行い、その意義や内容について生徒や保護者に対して説明した。	B
	生徒指導は、申し合わせ事項に従い温度差のない指導した。	B
	生徒一人一人の内面理解に努めながら、互いに心の通じ合う人間関係を築けてた。	B+
	生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立について指導した。	B+
	ホームルームは、年間ホームルームを計画作成し、生徒指導部で総括し、成果を上げた。	B
	部活動は、活動の活性化、学業と両立に向けて指導した。	B
	生徒会は、活動内容の充実、生徒の主体的な活動を支援した。	B
	進路指導は、進路指導部と各学年が連携し、組織的に指導した。	B
	進路指導は、キャリア教育の視点も導入した3年間の進路指導計画を作成し、組織的継続的に実施した。	B
	校内研修や、校外の研修会等への参加も含めて、自身の資質向上のための研修に努めた。	B
	外部からの不審者侵入、大地震等の大災害等に対する危機管理体制を推進した。	B
	家庭、地域、関係機関と連携した危機管理体制を推進した。	B-
	教職員は、その能力、適正が活かされるよう、適切に配置された。	B-
	各分掌ごとの校務の分担を明確にし、教職員が協働意識を持ち、組織的、計画的に取り組んだ。	B-
	各部、学年、各会議・委員会は、機能的、効率的に連携しながら運営した。	B-
勤務時間は、「ノー残業デー」、「ノー部活デー」等への取組等、適切に行った。	C+	
職員、生徒、保護者など、全ての人に対して人権尊重の精神を忘れず、適切な接遇をした。	B	
サービス規律、プライバシー、著作権の保護など、法令遵守の精神で取り組んだ。	B+	
教育課程	教科会議などを中心に体験的な学習、問題解決的な学習の指導方法を研究し実施した。	B-
	生徒の基礎基本の定着、学力向上のために、授業研究、指導方法研究を行い、授業改善、教科基準の改善に努めた。	B
	授業の開始、終了時刻を守った。	A
	総合的な学習の時間は各学年、指導計画に基づき、十分な成果を上げた。	B
	総合的な学習の時間は、あり方や内容を検証し、見直し作業を進めた。	B
	評価は、定期考査の得点だけでなく、各教科で評価基準を定め、それに基づいて行った。	B+
	生徒の質問や発言に対して適切に対応した。	A
	生徒の視点に立った授業改善を意識し、実践した。	B+
	授業の難易度や進度は適切である。	B+
	小テストや週末課題等を通して、生徒の学習意欲を高め学力の定着と向上に努めた。	B+
英語、数学等で習熟度別授業や少人数授業を有効に活用し、指導した。	B	
学校行事は、実施時期や内容等について検証し、精選のための検討を行った。	B	
課題教育	心肺蘇生法、AED等の応急処置の講習を実施し、緊急時の対策や体制の整備を図った。	B+
	管理している教室等について日常点検を怠らず、施設、設備の安全を確保した。	B
	生徒一人一人の心身の健康状態について、適切な健康管理、保健指導を行った。	B+
	人権教育は、3年間を見通し計画的に実施した。	B
	各類型は、進路実現も含めて十分に教育成果を達成した。	B+
	国際文化情報学科は、授業内容等をより深化させ、学科の特色化を図った。	B
	総合人間類型は、授業内容等をより深化させ、類型の特色化を図った。	B+
	教育課程は、教育環境の変化に対応すべく見直しを行った。	B
	類型や科目選択のガイダンスは、適切な時期に効果的に行った。	B
	高大連携は、その推進に向けて具体的な取組を行った。	B-

	国際理解教育は、その推進に向けて具体的な取組を行った。	B
	教育相談は、キャンパス・カウンセラー、特別支援教育コーディネーターと連携し、その充実を図った。	B+
	校内の美化に向け、日々の清掃活動において、生徒の指導に努めた。	B+
	図書室は、利用の促進を図り、各教科の指導等で効果的に利用している。	B
学校運営	新型コロナウイルス感染症防止対策を十分に行った。	A
	職場環境づくりのため、新型コロナウイルス感染症対策を適切に行った。	B+

A=4.5, B+=4.4~4.0, B=3.9~3.5, B-=3.4~3.0, C+=2.9~2.5

4 学校関係者評価

学校運営に関して

○80周年記念行事の準備もあるなか、トイレ改修等の工事もあり、大変だと思いますが、子どもたちの学校生活の環境が良くなることはうれしく思います。

○コロナ感染のつづく中、職員の皆様、色々配慮をしてくださり、感謝です。生徒の意見もきいていただきながらの運営だと嬉しいです。ホームページは、外部の人も見る情報源なので、トップページを見やすくわかりやすく最新の情報を載せてほしいです。

○地域に開かれた学校であることに敬意と感謝を申し上げます。学校長自らご多忙の中、地域の会議へ足を運び、学校の様子を話してくださり、地域の中へ入っていくという姿勢を見せてくださるので「地域の高校」として愛されています。学校評議員会の内容も丁寧で大変有難いです。地域の中にも鳴高の卒業生が多く、「卒業生」ということで仲よくされている姿も見ます。学校内でも生徒が来校者に元氣よく挨拶をしてくれ、校内もきちんと清掃され、毎年有用な卒業生を輩出しています。これからも校訓である「自律創造」のもとに自由な雰囲気の中でも礼儀正しく、豊かな人間性と国際人として広い視野を持つ生徒の育成を目指していただきたいと思います。

○先生方の勤務時間について、自己評価で「ノー残業デー」「ノー部活デー」等への取組等がC評価で低くなっている。長時間労働が危ぶまれるなか、学校行事や部活等への対応もあり、教科指導の時間の確保への影響も心配される。適切な状況で「ノー残業デー」「ノー部活デー」等への取組等を実践して頂きたい。先生方の時間を費やすのではなく生徒同士の自己改善や自己啓発への適切な助言スキルを模索してはどうか。

生徒指導で、生徒会について、自己評価では活動内容の充実、生徒の主体的な活動を支援したとあり、3年度の3.9から4年度の3.8への0.1ポイントの低下に留まっているが、生徒会役員を対象としたアンケートでは3.8から3.4へと0.4ポイント低下している。学校側と生徒側の受け止め方に乖離があるとすれば信頼関係に影響を与える危険性が秘められているかもしれないので、時間を費やす必要はなく、ちょっとした声掛けや対話の機会等で改善されることを期待したい。

○1 情報発信の評価は少し高いのではないかな。

スクール・ミッション、スクール・ポリシーは十分に伝わっているでしょうか。また、HPの後進は適切にできていますか。

2 勤務時間の評価が低すぎるのが不安。

教員志望者が減少している、教員免許を取得する大学生が3割を切ったと聞いています。まず先生方がやりがいを持って楽しく仕事をしている姿を高校生に見せてやってほしい。

教科指導について

○国際や類型などの特色を活かした授業も含め、先生方の努力が伝わってきました。娘の時に2年時の選択科目を大学受験での必要科目で悩んでいたことを思い出しました。先生方の声かけで前向きに考えるようになったので、進路に関しては背中を押してもらえる指導をしてあげてほしいです。

○ICTの活用など、保護者にわかりにくい部分もあるので、次年度はオープンスクールなどで授業の様子が見れると安心できると思います。補習も必要な生徒にしっかり声をかけていただけたら…。

○タブレットの導入は、現代社会に必須であると思いますが、読書をすることで、文字から自分の頭に絵を結ぶという作業を大切にしたいです。タブレットに映し出される映像が全てだと思ってほしくありません。そのことが人の言葉からも様々な事象や想いを創造することに繋がるからです。

○コロナの影響で海外に出る機会が減り、国際文化情報学科が定員割れとなっていました。今年は回避できて安堵しました。この学科のみ修学旅行でイギリスに行っていますが、リモートなどで外国の高校との交流も多くなったので、同窓生という意味で、学年全体同じ場所に行くのもよいのではと思います。

○総合人間類型では、最近教師になる学生が減少していますが、私の子供は3人共教師になりました。それは学生時代に大好きな先生が複数いたからです。今は汗をかかず高給の職が人気ですが、そう長くはつづかないでしょう。

○自己評価で、学力向上について、基礎・基本の定着、個に応じた学習指導ではA評価と高いが、生徒対象のアンケートでは、興味が持てる授業の工夫や生徒のニーズにあった有意義なものとの項目では、3点台のB評価でさほど高くない。その中で総合人間類型の授業は、3年度の3.6から4年度の3.9への0.3ポイントの向上が見られる。環境科学類型の授業も0.2ポイントの向上が見られる。専門分野で元々興味がある生徒を対象にしているの、一概に比較はできないと思うが、3年度から4年度への向上が見られた点で、何か手法や環境の変化があったのではないかと関心を抱いている。他の教科指導へのヒントがあるよと思います。

○教育課程への評価が下がっている項目が多い。
新学習指導要領に基づく教育課程や観点別評価の導入が円滑に進んだのは良かった。評価が下がっているのは、学力向上や授業改善への取り組みが弱かった点にあるのでしょうか。

学校行事に関して

○コロナで中止になっていた行事を再開するのは、継続より難しいと、私自身も地域の青愛協や公民館の活動をするなかで感じています。臨海に代わる行事も簡単ではないと思いますが、子どもたちが卒業後も思い出に残る高校生活になるよう各行事の継続・見直しをお願いいたします。

○行事を通して学ぶこともたくさんあるので、可能な限り開催してほしい。

○コロナ禍で実施できなかった行事も一つ一つ再開されてきました。受験に向けてなかなか難しい勉強が骨だとすれば、鳴高祭はじめていろいろ行事や部活が生徒の血や肉となっています。クラブへの入部率が高いことは大変素晴らしいことで、異学年と接することで得られるものも大きいと思います。また、同学年では、行事を通して一緒に作り上げた経験は思い出としても又社会に出てからの人間関係の構築にとっても、大きな財産になるものと考えます。これからも、多くの行事をちりばめながら、鳴高生の「骨と血」の両方を鍛えてあげてください。地域貢献の行事も多くの高齢者や子供と接することで「自転車のマナー」等につながることを期待しています。

○なんとといっても伝統行事であった「臨海学舎」が終了し、寂しい思いを抱いている。1年、2年の両方とも参加した卒業生としては、特にその思いが強い。1年生では2年生の先輩の後ろ姿を見て頼もしく思え、2年生では、スタッフとして遠泳の苦手な1年生の横について泳いで、寄り添うことが自然とでき、自分自身が精神的に成長していく体験をすることができたと思う。この思いは卒業してからも忘れることはなく、同窓会でも共有できる伝統行事となっていた。

現在学校では、この「臨海学舎」に代わる行事を検討していると聞き、ぜひ新たな伝統行事を積み上げて「鳴高魂」を育ててほしいと思う。

○コロナ禍の制限の中で全ての学校行事を実施できたのは素晴らしい。

「クリーンアップ鳴尾」「ビブリオバトル」など生徒が活躍し評価される新しい試みを充実させてほしい。

その他

○お忙しいなか、先生方の努力には本当に感謝しています。高校生活での経験は、卒業後も大きく影響すると、我が子を見ていても感じるので、今後ともあたたかい指導をお願いしたいです。

○コロナで人数減下もあったと思いますが、緩和されてきたら生徒が受ける講座(人権・防災)も参加できるように案内してほしい。

○地域清掃は、年一回ではなく、学期に一回ずつ学年ごとに行ってもいいのでは…と。地域の方やPTAに参加してもらうのはクリーンアップ鳴尾でよいが、それ以外にも地域の中での活動があってもいいと思いました。

○遅刻・欠席が多いのは、コロナ禍で、少しでも不安があれば学校を休んだり無理をしなかったりという習慣がついたのかもしれませんが、社会へ出たときに「時刻を守る」のは基本中の基本なので、今後はできるだけ厳しく指導してやってください。授業をきちんと受けることは、多くの税金を使って高等教育を受けている生徒の義務だと考えます。保護者はそれを教えるべきです。ウクライナでの戦争、トルコシリアでの大地震…大勢の命が奪われています。このまま核戦争などに突入すれば人類は破滅します。平和な日常を送ることがどんなに有難いことかを考えながら、毎日を過ごすよう指導していただきたい。戦争や災害について、どのように考えるか話し合ったり、文章にまとめたりする機会を設けていただきたいです。どんなに高学歴高収入でも命を失っては終わりだから。

○伝統校らしく熱心に学校運営に取り組まれている姿を拝見させていただき、心強く思い感謝申し上げます。

樟友会としても学校への支援を惜しむことなく続けられますよう努力したいと思いますので今後ともよろしく願いいたします。

そして、ますますの母校の発展を祈念しております。

○コロナ禍や長寿命化工事の厳しい環境の中でも「生徒を鍛える」ことを大いに進めてほしい。来年度も学校評価を生かして教育活動の充実・改善に取り組んでいただきたい。

○エネルギッシュな生徒、一部の悪気なく素直な遅刻生徒もみんな鳴高生です。今年度もコロナ禍で簡単に行事を行うことができない中、対策をとりながら3年ぶりにできた行事もあってそれなりの体験をされたと思います。学校は学力・学習だけではなく、人間力を高める場であってほしいです。より近い将来にむけて目標をもち前進できるよう先生、保護者の皆様とともに地域もお手伝いできればと思います。

鳴高生らしく“継承と革新”を来年度も目指してください。